



2023年9月19日 第3446回例会 会場：川越プリンスホテル5階

会員数：102名 免除出席者：3名 正会員出席者：55名 出席者：58名 早退：2名 出席率：57.43%

## プログラム

点鐘（12：30）／ロータリーソング（第4例会：手に手つないで・R-O-T-A-R-Y）／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：小林S A A〉

### 《卓話講師紹介》

谷澤 勇（やざわ いさむ）様

## 会長の時間

### 2023-24年度 会長 坂口 孝

臨時理事会報告：1.会員退会  
高口邦輔会員9月末日、  
吉崎秀夫会員9月12日、お二人とも体調不良とのこと、承認

#### 4.ビデオカメラの購入 承認

以下は小高副会長より、2570地区からの

#### 2.ガバナーノミニー指名

#### 3.2024-25年度ガバナー補佐委嘱

については坂口孝会員で承認

17日社会奉仕セミナーで五十幡ガバナーエレクトの挨拶で触れていたロータリー最初の社会奉仕事業はシカゴの公衆トイレをつくったこととの話から。100年以上も前の話で当時は公衆トイレがなかったこと、アルカポネの年代？で荒廃していた時代、当時の定款にもあったが、元々ロータリーは利益を得ることが最優先事項であったこと、そんな時代にドナルドカーター氏入会を機に奉仕か親睦かの議論中で奉仕をしていくことになる。方法としては市民団体を巻き込み、その市民団体の一つとして自治体と一緒に頑張ってみんなで一緒に作り、それが

ロータリークラブとしての団体での奉仕の原点になった。

## 幹事報告



### 2023-24年度 幹事 栗原 雄一

・配布物 ロータリーの友9月号、要約版、会報、ハイライト米山、卓話資料。

・地区より秋田豪雨災害支援金のお礼 2540地区へ994,380円送金。

## 委員長報告

・広報委員会 菊池委員  
ロータリーの友9月号の紹介

・地区社会奉仕 子ども家庭委員会 米原委員  
17日社会奉仕セミナー テーマ「子供の貧困を考える」 埼玉県少子化政策課主任 松本さん「埼玉県の子供の居場所づくり」、イエローハーツ代表 小林さん 子供の支援現場から「子ども食堂」について

ロータリアンが地域や民間の方に横断的に働きかけることで子供の問題も緩和してくることを実感。

地区の社会奉仕事業支援

埼玉県から SDGS ユーザー制度の概要と登録、社会奉仕事業についてのアンケートのお願い  
アイバンク委員会八木委員長から角膜移植促進活動について

・栗原幹事

18日青少年交換留学生報告会について  
52期5人の台湾派遣交換留学生の報告  
英語圏ではなくても語学力の上達等素晴らしいプログラムであることを実感。

・次週卓話講師紹介 佐藤道晴会員 マスタードシード保存クラブ クハ 703 保存会 会長 宮田敦彦さん 「川越仕様の鉄道と鉄道車両の保存について」

・出席報告 近藤委員長

## ニコニコボックス 真鍋委員

●本日の卓話担当小川会員講師谷澤勇様、本日宜しく願います。〈会長、幹事〉

●本日の卓話よろしく願ひ致します。谷澤勇さんの川越祭のお話しを楽しんで下さい。〈小川、小橋、若林、真鍋、小杉、和田（喜）、馬場（弘）、和田（尚）、堀尾、野溝、片山、水村、久保田、西川、鈴木、八木、小城、福岡、丸山、菊池、神谷、西澤、藤井、小高、相原、小峰、柏倉、石井（成）、馬場（常）、岩堀、山崎〉

●先日、孫娘の幼稚園で祖父母参観日があり参加してきました。決してジジ馬鹿ではありませんが、ウチのが一番可愛かったです！〈福岡〉

●我が家の夏のイベント夫婦の誕生日に鏡山さんのお酒とお花が色どりを添えてくれました。ありがとうございました。〈山口（崇）、近藤〉

●家内の誕生日に素敵なお花を頂きありがとうございました。〈丸山〉

●早退2名（敬称略） 合計51,000円

## 卓話 (小川会員よりご紹介)

○谷澤 勇様 昭和 17 年志儀町（現仲町）に生まれ4歳の時に年2回の山車行事にカルチャーショックを受け、それ以来川越まつりの虜に。20歳過ぎからは川越まつりだけでなく祭りそのものに興味を持ち、全国あらゆる祭りに参加し、あらためて川越祭りが好きになったとのこと。



祭りとは

たてまつるの{まつる}が語源（諸説あり）で太陽を神とする日神教。神社に氏子がおこもりして朝を迎える慣習から。また夏祭りは祈願の祭り、秋祭りは感謝の祭り。

祭り（祭祀）は神社が主体となって神に感謝や祈願等を行うのに対し。祭礼は氏子が主体となっ

て行うのが祭礼（附祭り）。祇園八坂神社の祇園祭がその発祥。不変である祭祀に対し進化発展してきたのが祭礼。

祭りとは過去と現在と未来が濃密に交流する場、つまり先祖に感謝をし、より発展させ未来の子供たちにどうつなげていくか、という場である。

川越まつりについて

東京で見られなくなった江戸のまつり（赤坂日枝神社の山王祭、神田大明神の神田祭）の影響を強く受け、再現している。

正式には14日が例大祭。15日に神様が神輿に乗って街に出てくるのが神幸祭。町の人たちが自主的に神様のお供をした附祭りが山車行事。これを合わせて川越祭が発展。

1648年に川越城主の松平信綱が江戸の天下祭りを見習って祭礼用具を氷川神社へ寄進、1651年氷川神社の神輿行列が氏子の町々を渡御したことが神幸祭の始まり。江戸の天下祭りの様式を受け継いだ都市型祭礼を370年の時代を超えて守り、川越まつり（氷川祭りの山車行事）の名のもとに発展させてきた。

今年の川越まつりは18の山車が出そろいます。みんなで楽しみましょう。